

支援教育コーディネーターだより

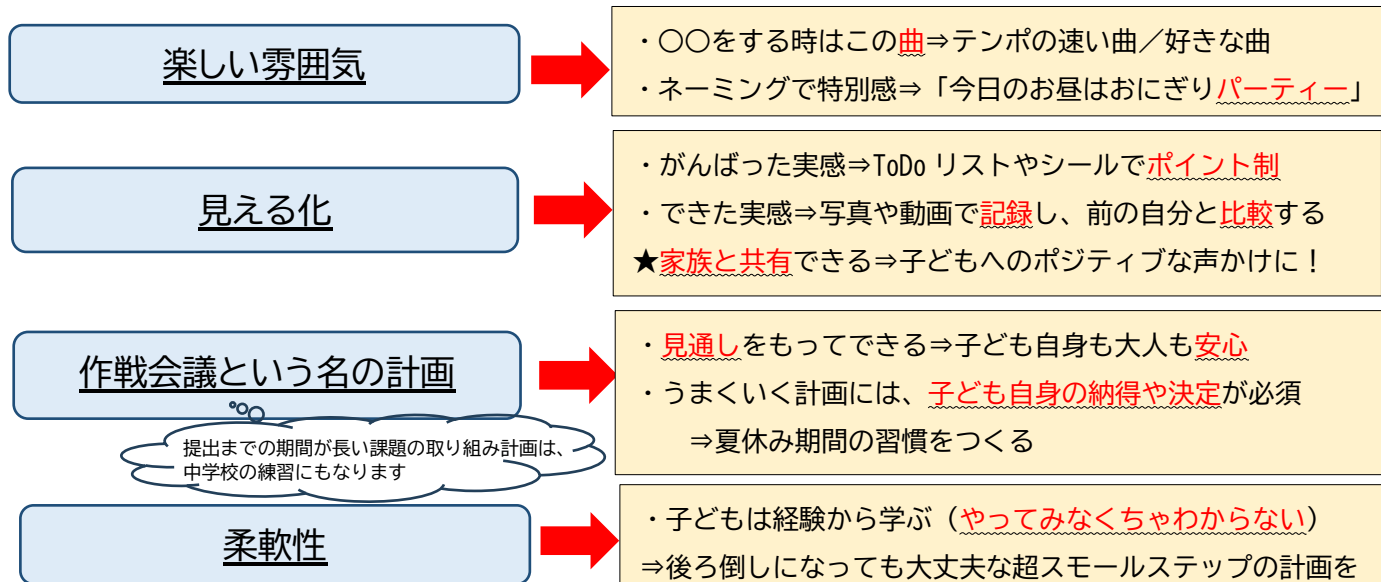
はらっぱ

川崎市立下作延小学校
支援教育コーディネーター
原 和美
R6. 7. 18

夏休みの過ごし方

明日の登校を区切りに、37日間の夏休みに入ります。自分の興味や好奇心を学習につなげる絶好の機会ですし、深く掘り下げることができます。夏ならではの体験や、時間的ゆとりがある期間に家族の一員として役割を担うなど、学校生活がある中では体験できない活動や学びの時間になることを願っています。とはいえ、本来学校に行っている時間帯も休みになるため、不安や負担に思われる保護者の気持ちもお察しします。そこで、少しでも心が軽くなるヒントになればいいなと思っているこの頃です。

不安や負担の内容は、生活リズムの乱れ ・ 学習の途切れ ・ 食事の準備 が挙げられるのではないのでしょうか。大人の不安から子どもへの要求が高くなりますが、子どもはその通りには動かず、イライラが募ることが少なくありません。自分のことを自分でできること【**自立**】や、自分の行動をコントロールできること【**自律**】は人生を豊かにします。では、なぜ子どもは動かないのでしょうか。それは、子どもにとって「面白くない」「(がんばった・できた)実感がない」「学校がある生活で培った習慣化が通用しない」ものだからです。そこで、やる気スイッチを入れるために、こんな方法はどうでしょうか。



ある休日の過ごし方を我が子と計画したら、「お母さんはこっちに書いてね」「自分のことは自分で書いてね」と言われました。苦笑いで受け入れると、本人は機嫌よく、自分から行動していました。大人が同じ方法で動くことも子どものやる気につながると学びました。

方法はさまざまです。無理せずに行える「悪くない」方法を選んでみてはいかがでしょうか。保護者のみなさんにとっても有意義な夏休みになりますように。応援しています。